



奈良おもちゃ美術館

イベント大盛況

来年3月、三郷町にオープン

社会福祉法人檸檬会（和歌山県紀の川市・前田効多郎理事長）は13、14の両日、三郷町立野北にオープンを予定している「奈良おもちゃ美術館」のプレ体験イベント「木育キャラバン in FSS 35」を開催した。2日間で県内外から計約4500人が訪れた。会場には300点以上の木のおもちゃが用意された他、大学生ボランティアのオリジナル紙芝居披露や、スギやヒノキを使ったパズル作りなどのワークショップも行われた。

おもちゃ美術館は福岡県や徳島県などで展開する「東京おもちゃ美術館」監修の体験型ミュージアム。国内外から集めた木のおもちゃを使用した木育の普及や良質な遊びを、年代、国籍及び障害の有無を問わずに提供する。

全国に展開する各館はそれぞれ自治体や団体などが運営。「奈良おもちゃ美術館」は令和7（2025）年3月にオープン予定で、三郷町が設立し、社会福祉法人檸檬会が運営する。基本的な運営方針の指導と、各館専属で活動するボランティアスタッフ

フ「おもちゃ学芸員」の養成講座などは、NPO法人芸術と遊び創造協会（東京都新宿区・多田千尋理事長）が行っている。イベントでは「奈良おもちゃ美術館」で活動するおもちゃ学芸員が、参加者らに木のおもちゃを通じた体験や遊び方を伝えた。



インタビュー



—奈良おもちゃ美術館の展開について。

奈良と木というは縁（ゆかり）が深く、奈良のイメージと、木のおもちゃがすごく合っていると思っています。その奈良の地で、木のおもちゃで思いきり遊んでもらえる場所というのがセールスポイントの一つだと考えています。

また、インクルーシブな美術館としては全国初になります。全国に展開するおもちゃ美術館が持つ多世代交流の要素に、障害者や障害児、さらには外国人や町民の人たちといった、あらゆる人に関わっていただく場所を作っています。

—県産材を使った取り組みもされるのですか。

おもちゃだけでなく、内装や館内のモチーフなど、さまざまなものに県産材を使っていくため、検討を進めています。



—おもちゃ学芸員として、子どもたちに、どのようなことを伝えたいですか。

時代的にもYouTubeや、音の鳴るおもちゃが多いと思いますが、やっぱり木のおもちゃを前にすると、親も子どもと一緒にあって楽しそうにしています。遊びを伝えるというよりも、子どもたちは自身で新しい遊びをどんどん考えていきます。それを見るのが私自身も楽しいです。

—「木育」という点では、子どもたちにどういったことを学んで帰ってもらいたいですか。

木のおもちゃは高額なものもあり、またどうやって遊んでいいのか分からぬものもあります。おもちゃ美術館でいっぱい遊び、触れ合い、その良さを味わってもらえたたらと思っています。

また、コミュニケーションを中心としたおもちゃもたくさんあります。学芸員がずっと利用者と関わるのではなく、家に帰ってからご家族とのコミュニケーションが生まれる、きっかけになればと願っています。